

矢作川流域圏懇談会 第5回公開講座

流域の視点から見た 治水・環境と総合水管理

～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～

2024年12月17日(火)
14:00～17:15

「G7 2030年自然協約」において「2030年までに生物多様性の損失を止めて反転させる」という世界的な使命（ネイチャーポジティブ）が表明されました。

また、令和6年8月30日に閣議決定された「流域総合水管理」は、今まで取り組んできた流域治水に加えて水利用や環境についてもあらゆる関係者の協働が必要とされています。これからの日本は都心部も含め、様々な地域で人口減少が加速していきます。「人口減少時代」を強く認識した時、従来の価値観・技術論とは異なる新しいポリシーを構築する必要があります。市民と自然が共生する社会を構築し、新たに提言された「流域治水から流域総合水管理への転換」について、私たちの流域ではどうするのかをみんなで考えてみませんか？

会場

名古屋大学 減災館 減災ホール
名古屋市千種区不老町 名古屋大学減災館

定員

会場 80 名
Zoom によるオンライン配信あり

お申込方法

①QR②Web③メールのいずれかで申し込んでください。
複数人での申込も可能です

②<https://forms.gle/bWpsRQRgUGwVgYuv8>

③メールの本文に①～⑥を記載してください。

①氏名 ②所属 ③役職 ④メールアドレス

⑤参加形態（現地 or オンライン）⑥懇親会の参加有無

申込期限

12月13日(金)



CPD プログラム
認定予定!

主 催 : 矢作川流域圏懇談会（事務局：豊橋河川事務所）

お問合せ先：中央コンサルタンツ株式会社 TEL：052-971-2541 担当：大嶋、成瀬

MAIL：r6_yahagi_jimukyokuhosa@chuoh-c.co.jp



①参加申込
QRコード



プログラム案内

- 14:00～14:05 開会挨拶
14:05～14:15 第1部 趣旨説明
14:15～14:25 第2部 流域治水から流域総合水管理へ
(講師：蔵治光一郎氏)
14:25～15:10 第3部 3名による話題提供
15:10～15:20 質疑応答
15:20～15:30 休憩
15:30～16:30 第4部 3名による鼎談
16:30～17:10 第5部 会場も含めた意見交換
17:10～17:15 閉会挨拶

矢作川流域のゆるキャラ

はぎぼう



カエルの手とアユの口、ヒシをもつイノシシの子（うりぼう）。矢作川流域に住む陸生、両生、水生の生き物を組み合わせ、流域の自然の豊かさを表しています。ふだんはぼーっとしているけど、矢作川のこととなると鼻息をフンフンさせながら熱く語る矢作川オタクです。



くらじ こういちろう

蔵治 光一郎 氏（東京大学 教授）

1965年東京都生まれ。東京大学大学院修了。専門は森林水文学・森林流域管理学。著書に『森の「恵み」は幻想か 科学者が考える森と人の関係』（2012）、編著書に『長良川のアユと河口堰 川と人の関係を結びなおす』（2024）等がある。



かやば ゆういち

萱場 祐一 氏（名古屋工業大学 教授）

1965年宮城県生まれ。東京工業大学卒業・修了、工博（名古屋大学）。専門は河道地形、河川の一次生産から、大河川、中小河川における川づくり、河川環境管理まで幅広い。著書に『河道内氾濫原の保全と再生』（2019、編著）、『河川災害と復興』（2024、編著）等がある。



もり てるたか

森 照貴 氏（土木研究所 自然共生研究センター長）

1981年愛知県生まれ。名古屋大学卒業、北海道大学大学院修了。博士（環境科学）。専門は群集生態学・河川生態学。著書に『河川生態学（2013、共著）』、『河川生態系の調査・分析方法（2019、共著）』等がある。

矢作川流域圏懇談会とは？

矢作川流域圏懇談会は山部会・川部会・海部会・市民部会で構成され、河川管理者だけでは解決できない課題に対して、流域一体となって取り組み、互いに連携し、いい川づくりと調和のとれた流域全体の発展につなげるための組織です。"流域は一つ、運命共同体"という共通認識のもと、治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理などの課題に対し、民・学・官の連携・協働で取り組んでいます。



矢作川流域圏懇談会HP

過去の公開講座の紹介

第1回

プラスチックが
生き物を苦しめている



第2回

アカトンボが危ない！
いま、水の中で何が起きているのか？



第3回

豊かな海の栄養源
～きれいな海は豊かな海か？～

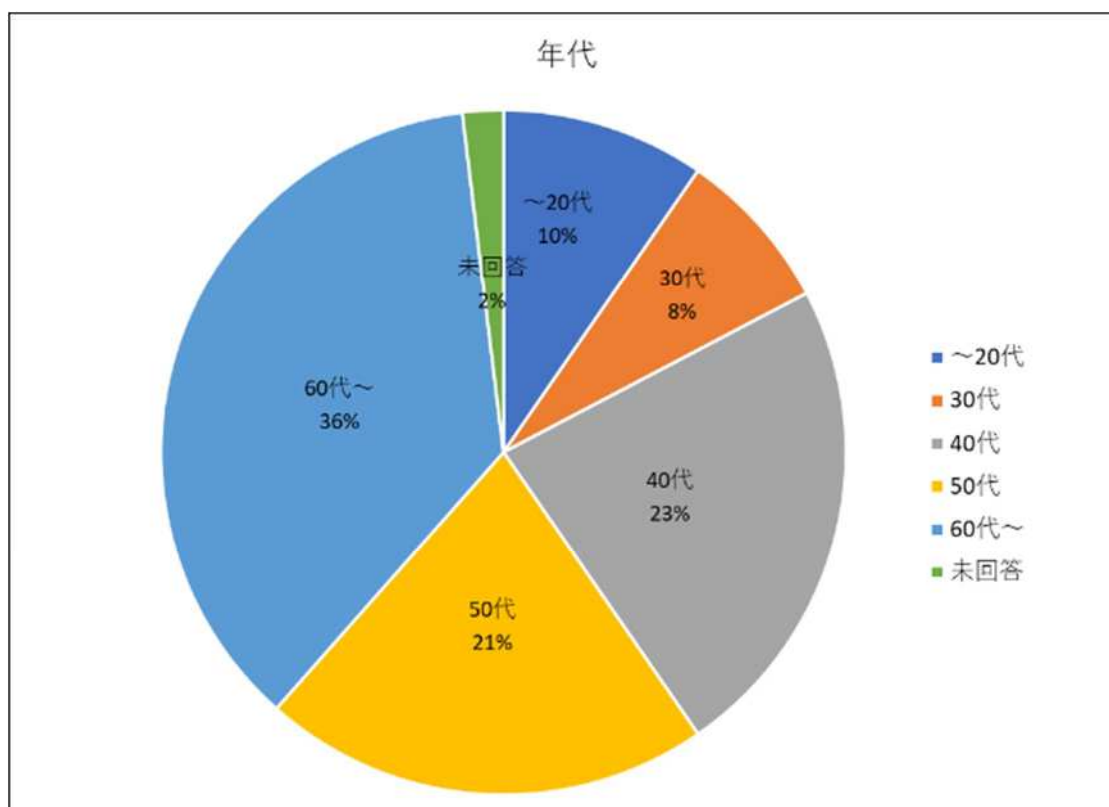
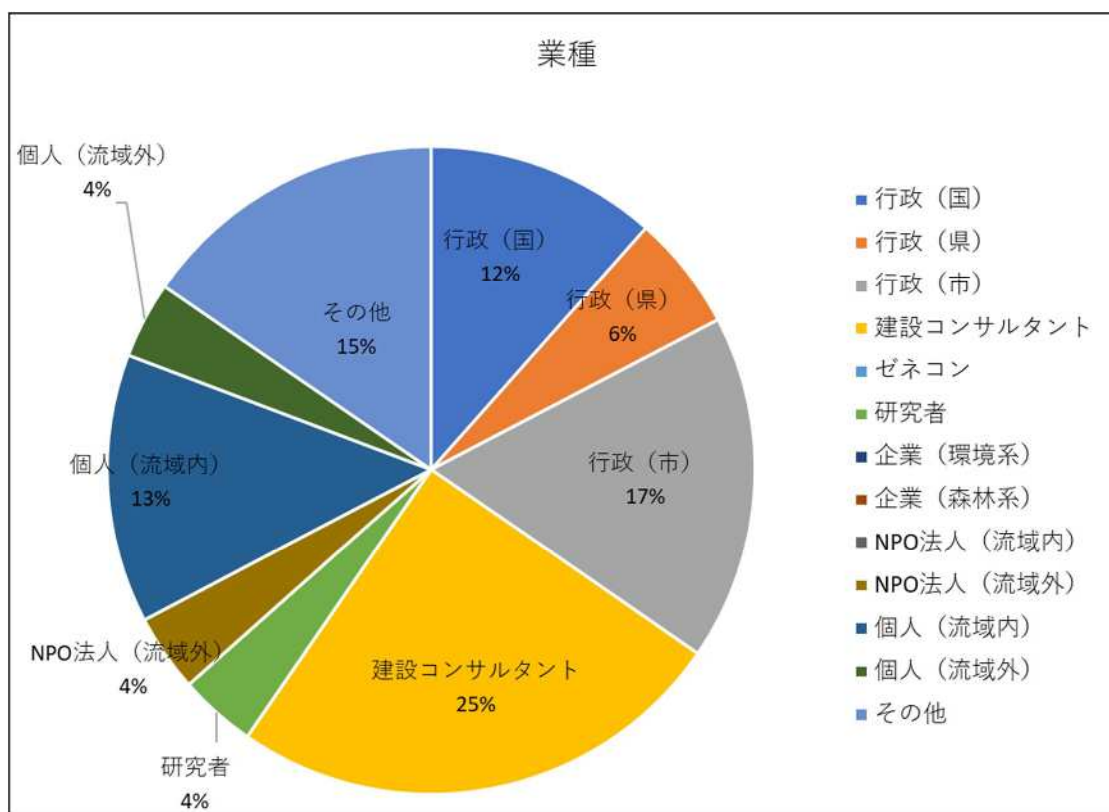


第4回

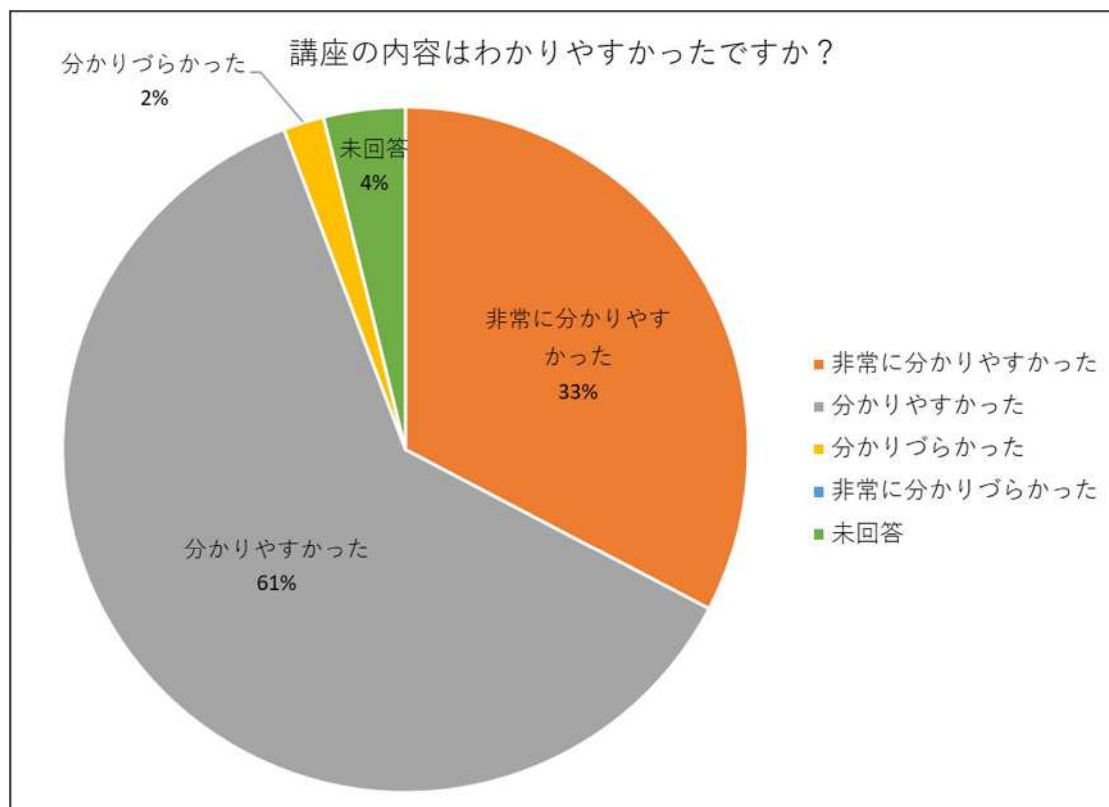
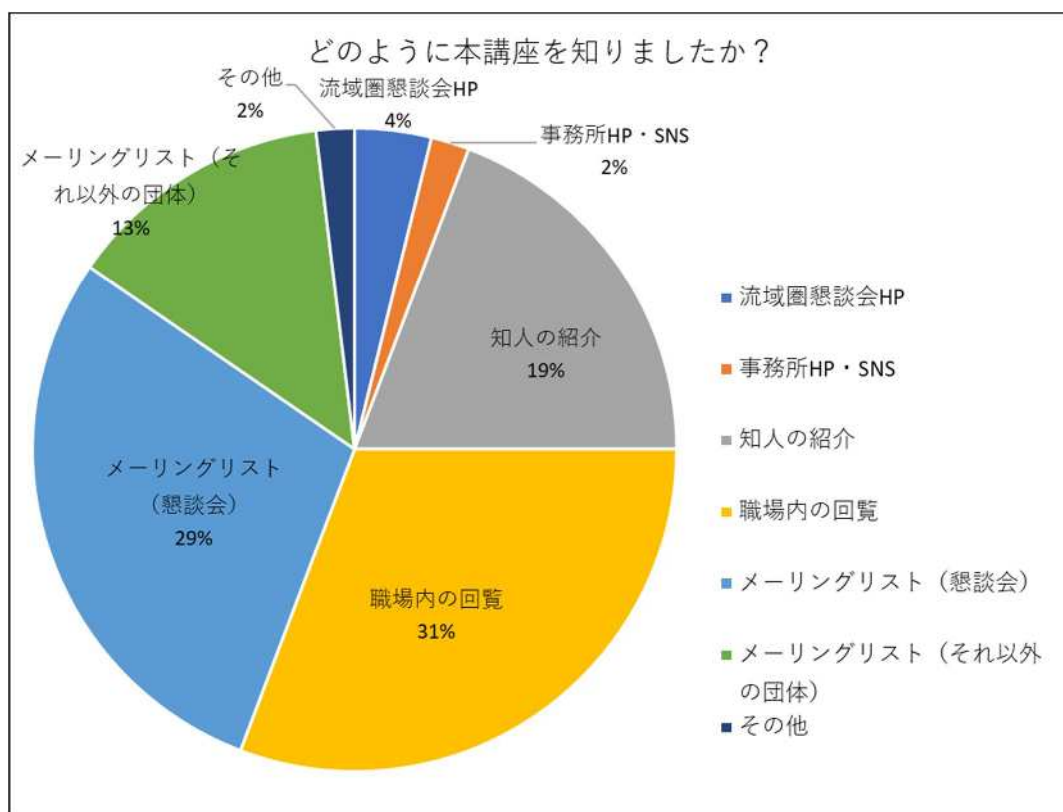
川がつなぐ 私たちの未来
～知らなかった山・川・里・海のつながり～



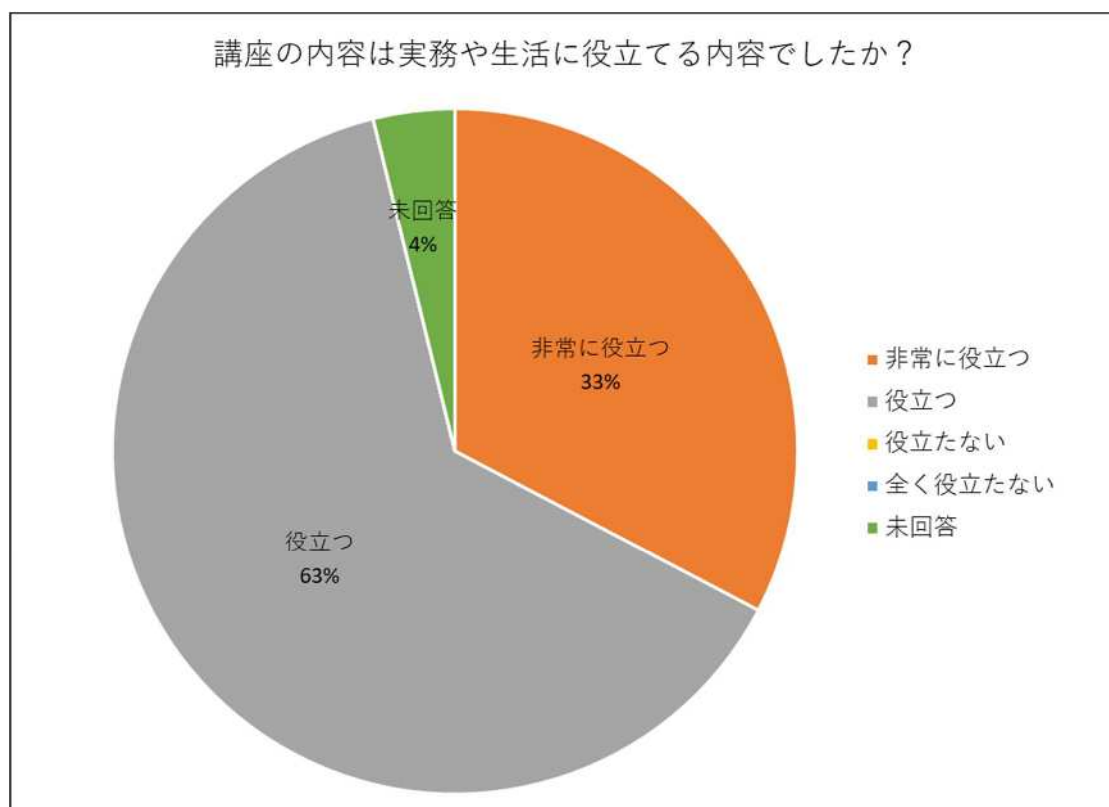
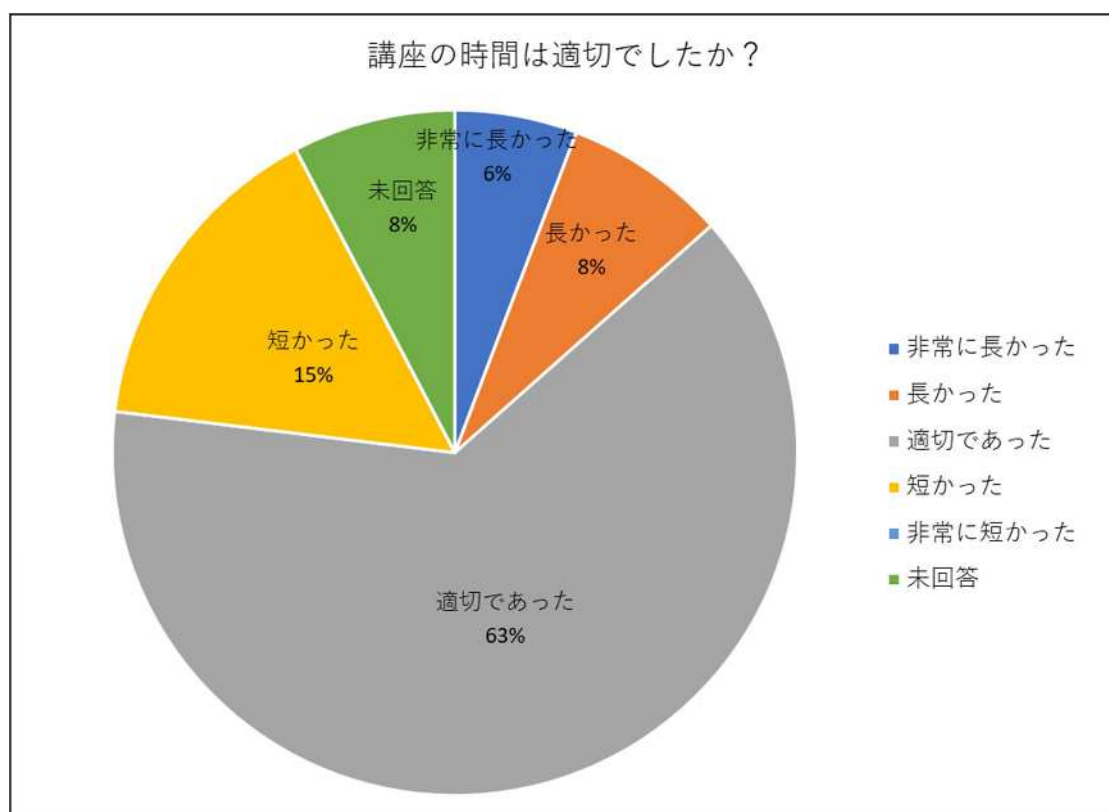
アンケート集計(1/4) ※合計 52 名の回答



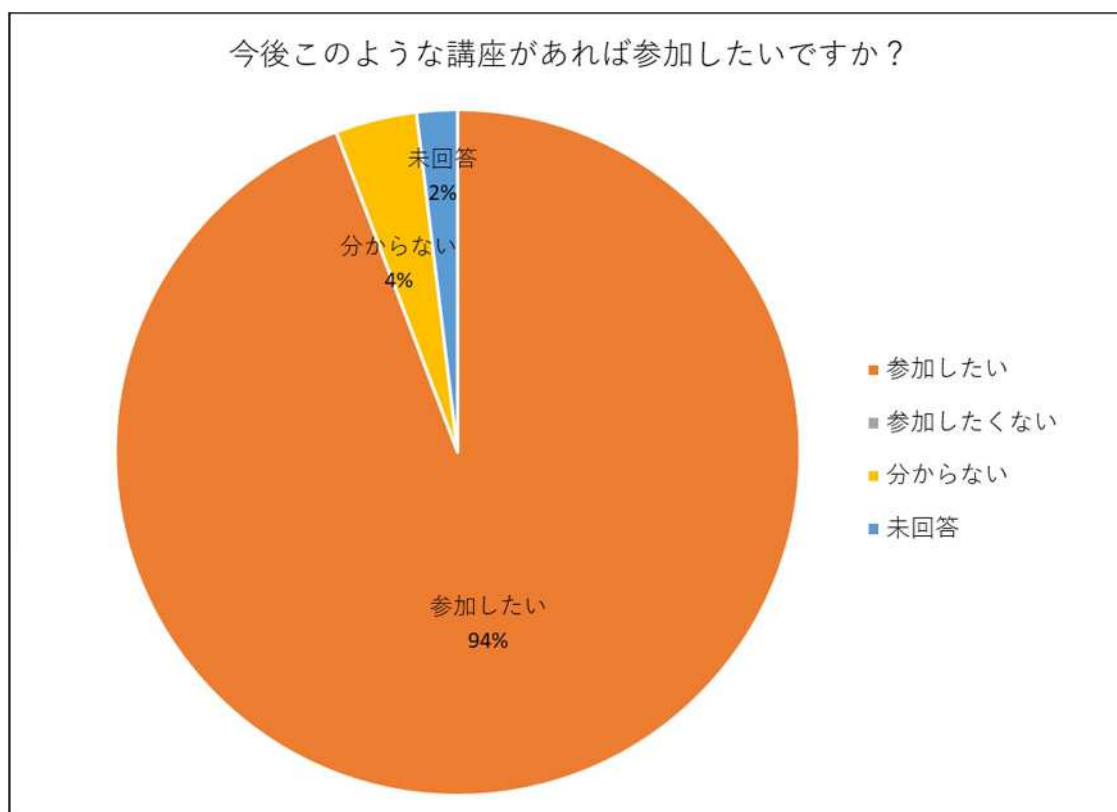
アンケート集計 (2/4) ※合計 52 名の回答



アンケート集計 (3/4) ※合計 52 名の回答



アンケート集計(4/4) ※合計 52 名の回答



その他質問や感想、気になること等があれば記載してください。

1. 講演、話題提供のお時間が短く、もっとじっくり聞きたいと感じた。
2. 非常に活発な懇談会であると思います。
3. 大学、国交省の研究所長など研究者だけでなく、地域住民の代表的な方も話題提供されてはいいかでしょうか。
4. 興味・関心のある内容で知らないこともたくさん聞けて嬉しかったです。もっと時間をかけて様々な話を聞きたかったのが、少し残念でした。
5. 地域での連携をどの様にするのかを考えています。たくさんのヒントを頂きました。
6. 今日の 3 先生の対話では、見えてきたビジョンに対してそれを実行する人材をどのように見出し、育成するのかということを知りたいと思っていました。
それに対し萱場先生の大学のフィクサーの話、蔵治先生の球磨川流域大学構想を伺うことができ、そうした方向をぜひ矢作川流域でも考えられたらと思います。
第 1 次産業を盛り上げる社会にしましょう。若者が残り集う地域を目指して。(若者が残り集う地域を目指してをテーマにヒアリング 担い手づくり事例集を流域圏大学構想リサーチ活動にできないか)
7. 凄い勉強になった。球磨川にも行きます。ユニオンのような流域圏大学校を。面白く、美味しく記憶に刻むような学びや体験をつくってゆく事が大事だと思う。
(高齢者はもちろん) 若者が残り、集う地域・流域をつくってゆくこと。一次、二次、三次～六次産業をなりわい化する道をつくってゆくこと。
8. 新しい次の段階にステップアップした記念すべき公開講座になったと思う。今回はよい成果になったと思う。
9. いろいろ考える手がかりを与えてもらった気がします。市民の関わり経験の希薄化、どうすればその力を取り戻せるか、人口減少や気候変動による災害の多発・甚大化で市民は発言しなくなっているような気がする。関係性と想像力がキーになる気がする。具体性がある発信力が大事、議論の場が大事というのはそのとおりだと思った。
10. 山に関心がある方たちを取り込む受け皿が必要かなと最近感じています。山の現状を知ると山の保全、森林の活用に何か役に立ちたいと思っている方は多いと感じています。

11. 具体的に話そうと思われるお気持ちが伝わってきた。

12. 雨の日に側溝や水路に流れていく水が「もったいないな」という感覚、持てないでしょうか？我が家も雨どいから雨水貯留→オーバーフロー水は雨庭に入れています。

13. 根羽村には村で水道を管理していますので、消防団のように水を管理するイベントや自治と治水に関する取り組みをクリエイトしていきたいと思いました。本日はありがとうございました。

14. 只今、宮崎にて講義内にあった地域共創のような事を宮崎大学演習林内にて KODOBOKU 技術を利用した斜面排水についての研究会に所属しております。

その他近自然森づくりのスイス研修などに参加しておりますので、諸先生方と話したいことだらけです。
(林業作業道の保守、流水による土の流出などの小規模で人力でできる技術についての意見を聞きたい。)

15. 前回の講義よりも難解でした。大学の講義レベル？今回の講座の想定するターゲットは誰だったのでしょうか？大学生？市民が重たる懇談会の構成員であるなら、わかりやすい話題提供をして頂けると初学者に優しいと思います。ディスカッションは良かったです。

16. 流域大学、流域行政を考えてみます。

17. 市民にできることはどんなことでしょうか？各人のお話をもっと聞きたかったです。

18. 現代の水田の問題、生物多様性に寄与しているのかどうか非常に疑問です。谷津田環境は何らかの形で保全する仕組みをつくってほしいと思っています。

19. 矢作川沿いの豊田市越戸公園の近くにすみ、散歩などに利用しています。河川敷公園であり、大水の場合はつかることがありますが、ここ 20 数年はなく、エノキ並木等の美しい公園です。

しかし、利用者は低く休日でも野球以外の活用はされていません。まずは、住民の関心を高める防災を兼ねた催事の創作を開発したいと思います。